

市町村名		宮古島市					
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【中期的検証事業】							
事業名	平良港総合物流センター整備事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(1)-イ	
担当部課名	建設部	港湾課	事業実施 年度	平成 29	令和 3	年度 人流・物流を支える港湾の整備 III-9	
事業内容	宮古地域において物流の安定化を図るため、平良港において近年増加傾向にある取扱物流量に対応できるように、平良港総合物流センターを整備を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		~H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	合計	
	実績報告上の総事業費(最終)	16,282	22,073	829,857	906,867	1,775,079	
	A. 予算現額	16,622	23,222	829,857	906,874	1,776,575	
	B. 執行済額	16,282	22,703	829,857	906,867	1,775,709	
	うち 交付金充当額	13,025	18,162	663,885	725,493	1,420,565	
	執行率(%) (B/A)	98.0%	97.8%	100.0%	100.0%	99.95%	
執行状況の説明	R2年度は繰越事業となったが、R3については当初予定通りの予算執行を行うことができた。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	平良港総合物流センター建設工事	目標	基本設計策定	実施設計策定	工事1年目完了	工事完了	供用開始
		実績	基本設計策定	実施設計策定	工事1年目完了	工事完了	供用開始
		目標					
		実績					
	目標						
	実績						
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	平良港総合物流センター建設工事の完了	目標	基本設計の完了	実施設計の完了	本体工事の着手、建物基礎工事完了	建築工事100%、電気工事100%、機械工事100%	工事完了
		実績	基本設計の完了	実施設計の完了	本体工事の着手、建物基礎工事完了	建築工事100%、電気工事100%、機械工事100%	工事完了
		目標					
		実績					
	目標						
	実績						

事業完了後の取り組み

	成果目標(指標) ■ 中期にわたる事業効果 □ 後年度に発現する事業効果	達成/進捗状況					
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R4年度 目標/発現年度	
事業完了後の成果目標	取扱物流量(上屋倉庫取扱物流量) (総合物流センター、第1埠頭上屋倉庫、第2埠頭上屋倉庫)	目標	194千t以上/年	289千t以上/年			289千t以上/年
		実績	192千t/年	207千t/年			207千t/年
	目標						
	実績						
状況説明	<p>【R4年度】 ・総合物流センターをR4.4月に供用開始し、目標値289千tに対し、実績値207千tとなり、目標値の71.6%となった。新型コロナウイルス感染症の影響で、クルーズ船の寄港がなかったため、観光客数が減少しており、その影響を受けたものと考えられ、目標は概ね達成することができた。</p>						

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
<p>【R4年度】 ・総合物流センターに移る前の使用施設(第3埠頭上屋倉庫)は、昭和51年に整備され(延べ床面積1,515㎡)倉庫の使用面積について現在の取扱物流量には対応できていなかった。 ・総合物流センターに移設前の使用施設は、岸壁から離れた位置にあり船舶から荷下ろしをし倉庫に入れるまでに時間と手間が掛かった。</p>	<p>【R4年度】 ・総合物流センターが完成したことにより、倉庫部分で前使用施設の2.2倍の面積を確保できたことから、取扱物流量が格段に望めるため 総合物流センターを中心とした、効率化を追求した運用方法を常に検討する必要がある。</p>

今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)

【R4年度】

・令和4年4月に供用開始を行い、物流の円滑化及び安定化を図るために施設の利活用を促す(年間の取扱物流量289千t以上を目指す)。また台風襲来時に食料の品薄状態が慣例化していたが、港運会社、スーパー各社と連携をとり、品薄状態の解消、ストック機能の強化を図る。

・総合物流センターの前面に、複合一貫輸送ターミナル改良事業が進められており、岸壁延長440m中295mが暫定供用され残り145mの整備が進められている(令和6年度に供用開始)、RORO船の増加も予定されていることから、総合物流センターを中心とした取扱物流の効率的な流れをつくっていききたい。